

二匹のディスタンス

森野 光太郎

(ひとはく連携活動グループ テネラル)

2008年2月11日兵庫県立人と自然の博物館で開催された「第3回共生のひろば」で、昆虫の写真を展示した。写真を通して、昆虫の美しさ、おもしろさを感じてほしい。とくに、昆虫の「眼」や「姿」を見てほしいと思う。

二匹のディスタンス（写真1）

マメノメイガ。春先から秋という長い期間にわたり成虫が見られる蛾である。特徴は止まり方で、前脚を立てさせて止まる。

灯火採集中に偶然2匹並んで止まっているのを見つけ、まるで二匹が寄り添うような形をしていたので撮影した。また、魚眼レンズを使うことによって、この蛾の特徴である前脚との遠近感をはっきりと際立たせる写真を撮ることができた。魚眼レンズは180度の画角があり、魚の眼で見ているような、ほかのレンズでは撮れないような写真が撮れる。

擬態モドキ（写真2）

ヒナバッタのなかま。浅間山の鬼押し出し園で撮ったもので、このバッタがとまっている岩は溶岩である。この日は晴天で、ほかにも玉虫や蜻蛉がいた。遠くから見ると岩や苔の色に同化して見えなくなる。



写真1. 二匹のディスタンス

兵庫県香美町大笹ハチ北高原中央ゲレンデ/2007/08/23/NIKON D70/AF DX Fisheye

Nikkor ED 10.5mm F2.8G/絞り3.5/シャッター速度1/250秒

(平成19年度兵庫県高等学校写真連盟阪神支部総合文化祭写真展入選作品)

虫の一分（写真3）

シオヤアブ。下校途中草むらに止まっているのを見つけた。モノクロで分からないかもしれないが、背景は緑色で虫は黄色なのでとてもいい感じになっていた。

また、このひょろっとした顔がとても印象に残った。まるで獲物に気づかれないように忍び寄るハンターのような感じがする。

琥珀と櫛（写真4）

クシヒゲシャチホコ。この種は名前にあるとおり触角と羽が透けているのが特徴で、この写真では地面の点の輪郭が羽から透けて黒くなっているのが分かる。ほかにも良い写真があるのだが、あえてこの写真を選んだ理由は、羽が透けていることを表したかったからである。また、この日は蛾の写真を撮るのに夢中になり、気づいてみれば終電しかなく、家に帰ったのは12時20分頃だったという苦い経験がある。



写真2. 擬態モドキ
群馬県吾妻郡嬭恋村鬼押し園/
2007/08/20 / NIKON D70 / SIGMA DG
70-300mm F4-5.6 DG MACRO / 絞り6.3 /
シャッター速度1/1000秒



写真3. 虫の一分
兵庫県宝塚市中山五月台 / 2006/07/08 /
NIKON D70 / AF-S VR Micro Nikkor ED
105mm F2.8G(IF) / 絞り3.8 / シャッター
速度1/320秒



写真4. 琥珀と櫛
兵庫県宝塚市JR武田尾駅構内 / 2006/12/17 /
NIKON D70 / AF-S VR Micro Nikkor ED 105mm
F2.8G(IF) / 絞り5.6 / シャッター速度1/60秒